

第2章

現在の古賀市の環境を 見てみると

- 1 周辺環境に対する市民の評価
- 2 環境の現状
 - (1) 自然環境
 - (2) 生活環境
 - (3) 都市環境
 - (4) 地球環境
 - (5) 環境意識と行動（ライフスタイル）
- 3 環境上の課題

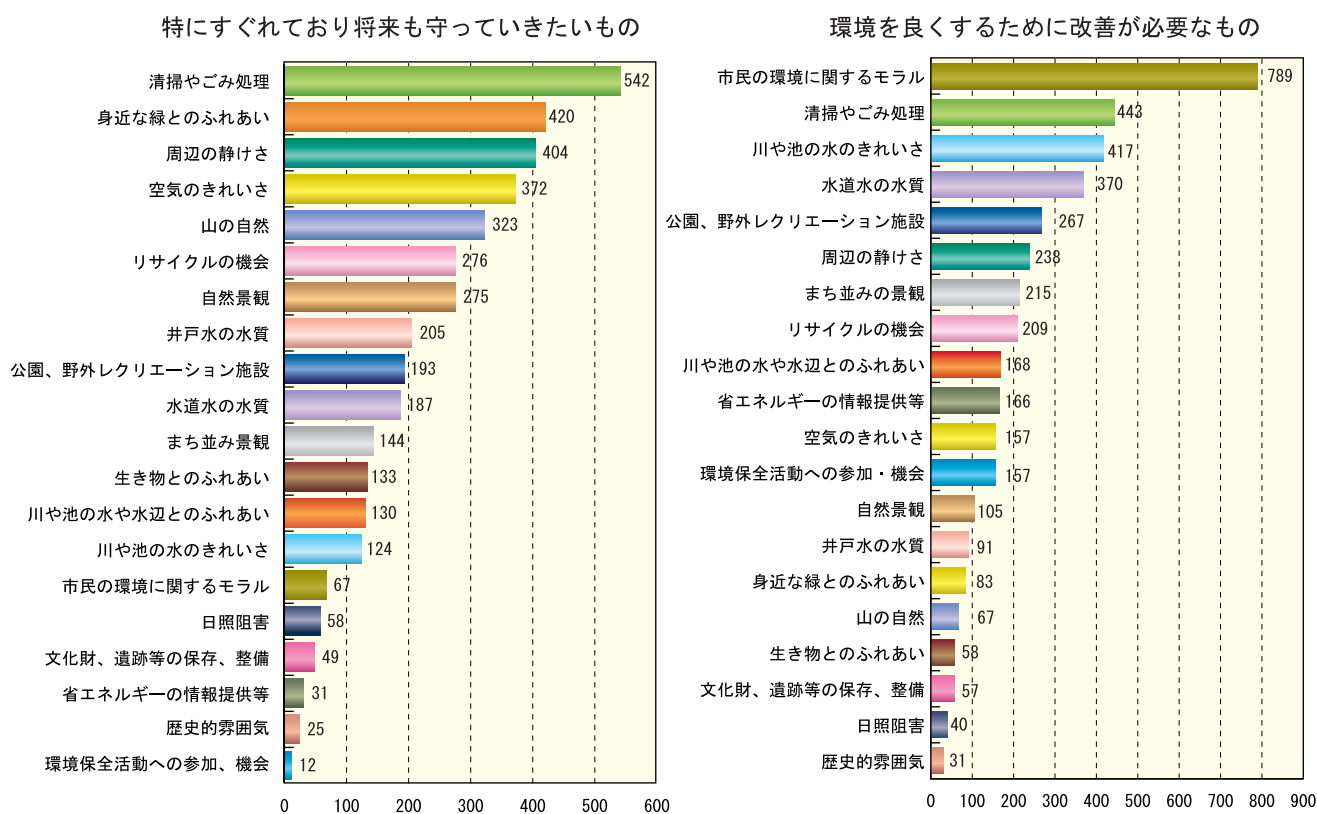
第2章 現在の古賀市の環境を見てみると

1 周辺環境に対する市民の評価

市民アンケート調査結果によると、「特にすぐれており将来も守っていききたいもの」としては、「清掃やごみ処理」が最も多く、日頃行われているごみの分別収集等を反映していると考えられます。これに続く「身近な緑とのふれあい」は、古賀市の身近な緑の豊かさを評価しての意見だと考えられます。

一方、「周辺環境を良くするために改善が必要なもの」として、「市民の環境に関するモラル（道徳）」を指摘する意見が圧倒的に多くなっており、環境教育の必要性がうかがえます。これに続いて「清掃やごみ処理」「川や池の水のきれいさ」「水道水の水質」が挙げられており、身近な生活環境に関する改善も望まれているといえます。

図2-1 周辺環境に対する市民の評価



(注) アンケートではそれぞれの設問について、1位、2位、3位の項目を回答しています。
このグラフは、1位=3点、2位=2点、3位=1点と点数付けして合計した点数を示しています。

(資料：H14年度市民アンケート調査)



(1) 自然環境

<現状>

① 動物

平成14年から15年にかけて行った古賀市自然環境調査によると、以下のような多種類の動物の生息が確認もしくは推定されました。

★哺乳類

ニホンザル、イタチ（いずれも福岡県レッドデータブック*準絶滅危惧）10科14種

★鳥類

チュウヒ（環境省レッドデータブック絶滅危惧Ⅱ類、福岡県レッドデータブック絶滅危惧ⅠB類）、ハヤブサ（環境省レッドデータブック絶滅危惧Ⅱ類、福岡県レッドデータブック絶滅危惧Ⅱ類）など38科108種

★爬虫類

ジムグリ、ニホンイシガメ（いずれも福岡県レッドデータブック準絶滅危惧）など5科11種

★両生類

トノサマガエル、ニホンアカガエル（いずれも福岡県レッドデータブック絶滅危惧Ⅱ類）など4科10種

★昆虫類

クロツバメシジミ、コバンムシ、エサキアメンボ（いずれも環境省レッドデータブック準絶滅危惧）など78科232種

★魚類

陸封型カジカ、ドジョウ（いずれも福岡県レッドデータブック絶滅危惧Ⅱ類）など24科48種

★陸産貝類

ミヤザキムシオイ（環境省レッドデータブック絶滅危惧Ⅱ類）、アメイロギセルなど12科42種

★汽水・淡水産動物

ベンケイガニ（福岡県レッドデータブック絶滅危惧）、タケノコカワニナ（福岡県レッドデータブック絶滅危惧Ⅱ類）など42科69種



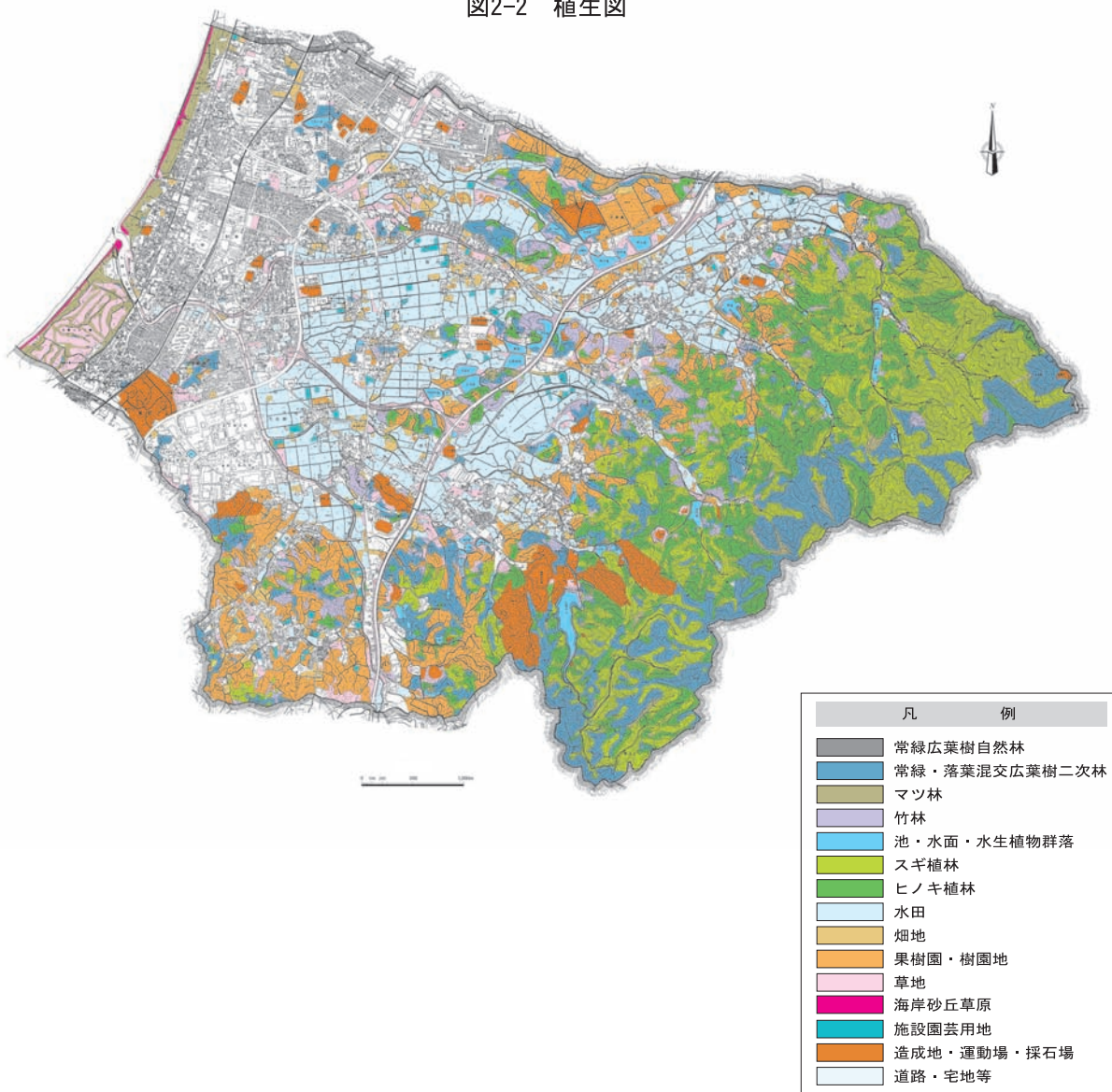
② 植生

市の南東部は山地で、針葉樹人工林、竹林、照葉樹林などの樹林がモザイク状に分布する森林となっており、中央部の低地と丘陵地には水田、畑地、果樹園が分布しています。北西部の低地は市街地ですが、玄界灘に面した海岸部には砂丘植生と海岸黒松林が見られます。

平地から山地にかけての陸域は古くから人為的攪乱の影響を強く受けており、原生植生は存在しませんが、山地帯上部の森林や社叢林に残る自然林や海岸の草本群落、池沼の水生植物群落の中には、自然性の高い植生が見られます。

動物の良好な生息環境となる森林や田畑は、第1章（図1-9）で示したように、徐々に減少しています。その要因としては、農林業の担い手の減少が考えられます。

図2-2 植生図



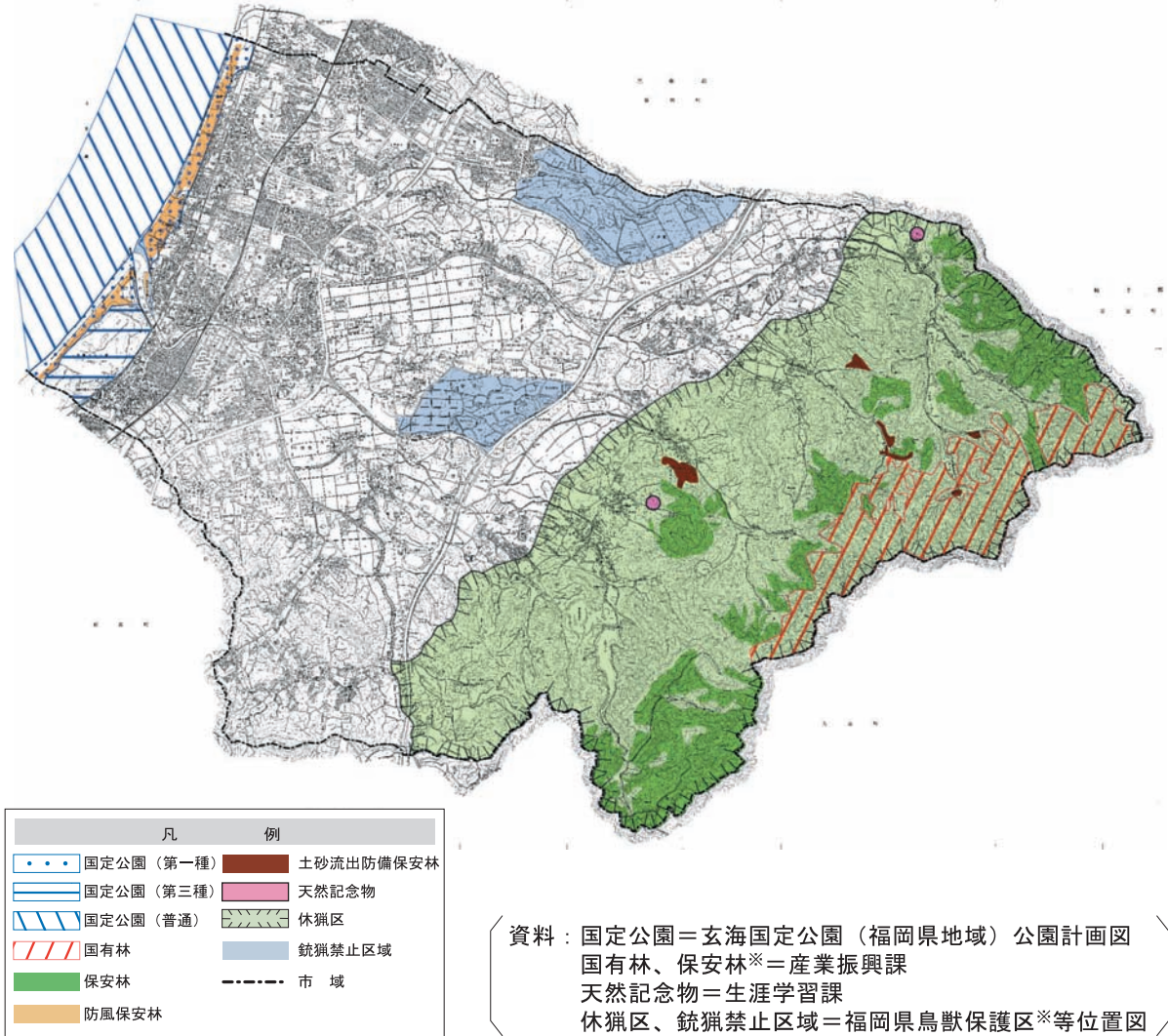
(資料：古賀市自然環境調査)



③ 自然環境に関する法指定

自然環境に関する法指定状況は図2-3のとおりです。

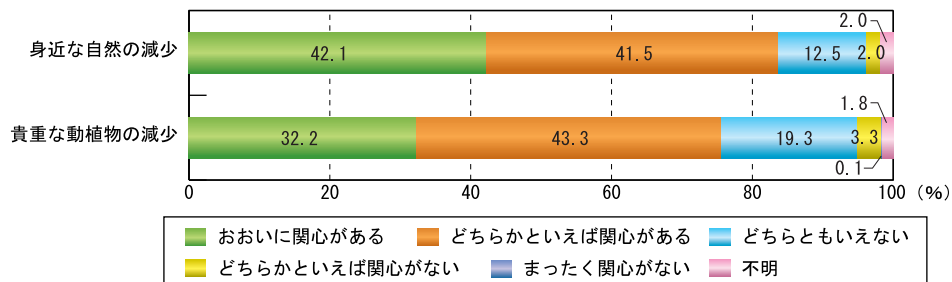
図2-3 自然環境関連法指定状況図



④ 自然環境についての関心

市民アンケート調査結果によると、市民の約7割が、環境問題としての貴重な自然の減少に関心を持っています。また、自然とふれあう機会の減少を指摘する意見も見られます。

図2-4 自然環境についての関心度



（資料：H14年度市民アンケート調査）



⑤ 水辺

古賀市は、海、山、川、田園、丘陵と、自然の要素を豊富に備え、自然環境に恵まれた地域であるため、自然としての景観は大変優れています。

東は犬鳴山地・立花山地からみかん等の樹園地として利用されている丘陵を経て、水田や畑地の平野部に至り、市街地を経由して、砂丘と松原の連なる西の玄界灘に至るまで、水系に沿った自然の相貌^{そうぼう}をバランスよく備えています。また、幾筋もの小さな谷川が急峻な山を下って扇状地を作り、最後には大根川に合流して玄界灘に注いでいます。

玄海国定公園に指定された海岸線地域のひとつである花鶴浜は、玄界灘を一望できる白砂青松の美しい海岸です。

図2-5 玄界灘を一望できる花鶴浜



図2-6 犬鳴山系に位置する古賀ダム



市民アンケート調査結果によると、特に残して欲しい水辺には、千鳥ヶ池、大根川、清瀧川、薬王寺が挙げられています。選んだ主な理由としては、千鳥ヶ池は「生物の生息空間である、身近である」等が多くなっています。清瀧川や薬王寺は「ホタルの生息地である、水がきれい」等の理由が多く見られました。一方、大根川のように「古賀市を代表する川である、汚れが目立つためきれいにしたい」等の理由で残して欲しい水辺を選ぶ市民もあり、親しみのある水辺づくりのために市民参加による河川清掃を進めるべきとする意見も見られました。

<問題点の整理>

- 市内には犬鳴山系に連なる山々や河川、玄海国定公園に指定されている海岸線と松林など多様な自然が残され、希少な動植物も生息・生育しています。
- 市民の多くは貴重な自然の減少に関心を持っており、保全すべき自然環境を明らかにして、必要な措置を検討していく必要があります。
- 担い手の育成を含めた森林や農地の保全対策が求められています。
- また、自然とのふれあいの機会や場の確保が求められています。
- 多くの市民は水辺に関心を持っており、水辺により親しみを感じたいという意見がうかがえます。
- 親しみのある水辺づくりのための市民参加による河川清掃の必要性が指摘されています。



(2) 生活環境

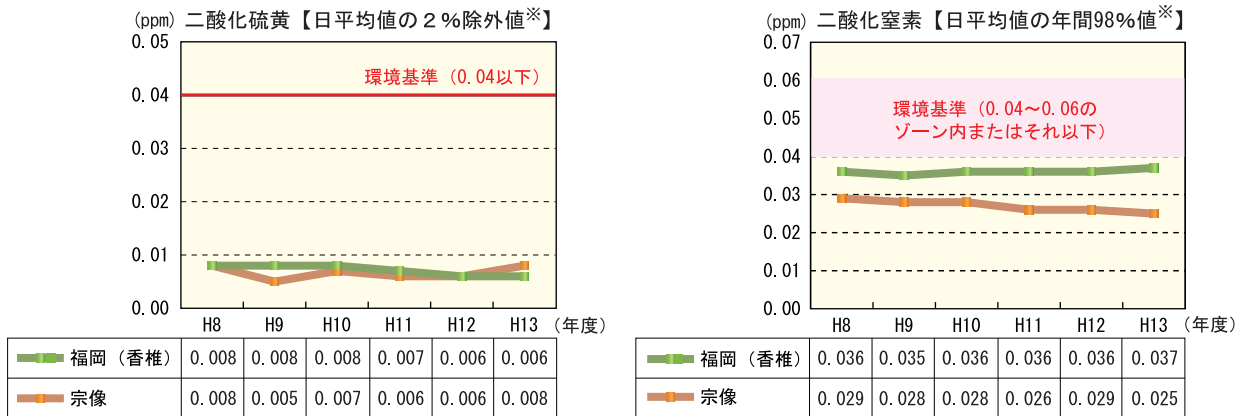
1) 大気環境、騒音・振動

<現状>

① 大気環境

古賀市には、県の一般環境大気測定局、自動車排出ガス測定局ともに設置されていません。周辺の福岡市（香椎）と宗像市の測定結果をみると、いずれの地点においても二酸化硫黄、二酸化窒素は環境基準*を満たしており、大気環境は概ね良好と推測されます。

図2-7 周辺の一般環境大気測定局における大気汚染測定結果の推移



(資料：公害関係測定結果（福岡県）)

古賀市における平成12年度及び平成13年度の公害苦情件数のうち、いずれも野外焼却に関する苦情が最も多くなっています。

表2-1 苦情一覧表

	平成12年度	平成13年度
水質汚濁	4件	3件
悪臭	8件	8件
騒音	4件	7件
野外焼却	12件	14件
不法投棄 ^(注)	4件	9件
害虫	2件	2件
その他	0件	1件
(小計)	(34件)	(44件)
犬猫	39件	39件
苦情総数	73件	83件

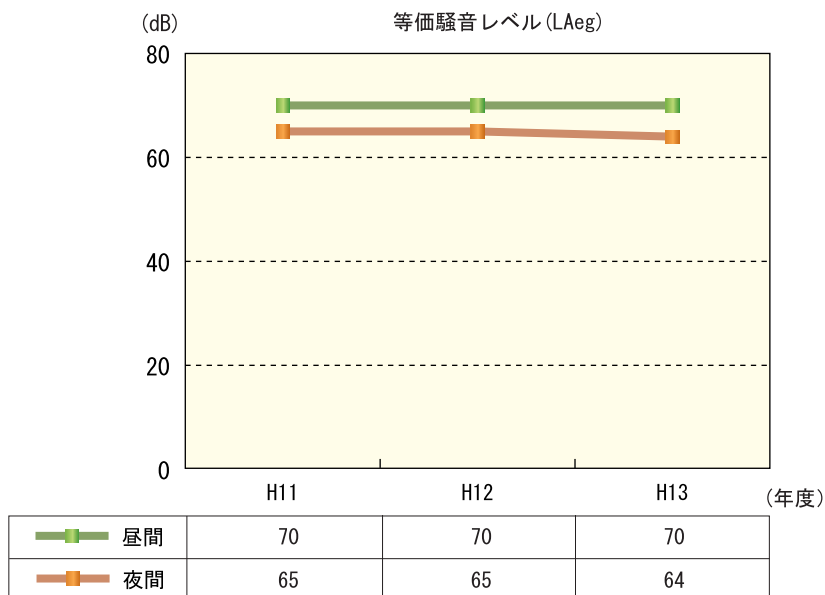
(注)：投棄者が業者によるもので悪質と判断されるもののみ計上

(資料：環境課)

② 騒音・振動

道路交通騒音については、市による測定を行っており、平成11～13年度における等価騒音レベル*は、現況の環境基準（幹線交通を担う道路の特例値：昼間70dB、夜間65dB）を満足しています。しかしながら、モータリゼーションの進行や古賀市及び近隣市町の人口増による自動車交通騒音・振動や近隣騒音問題も懸念されています。

図2-8 道路交通騒音測定結果の推移

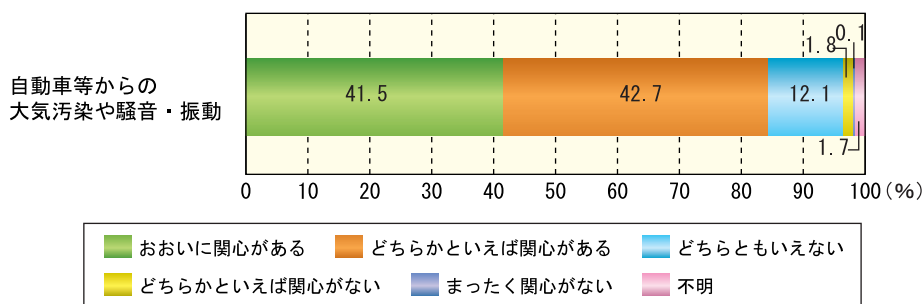


(資料：公害関係測定結果（福岡県）)

③ 大気環境、騒音・振動についての関心

市民アンケート調査結果によると、市民の約8割が大気汚染や騒音・振動に関心を持っており、約7割が行政に望むこととして大気汚染や水質汚濁などの公害対策の強化を挙げています。

図2-9 大気汚染、騒音・振動にかかる関心度及び行政に望むこと



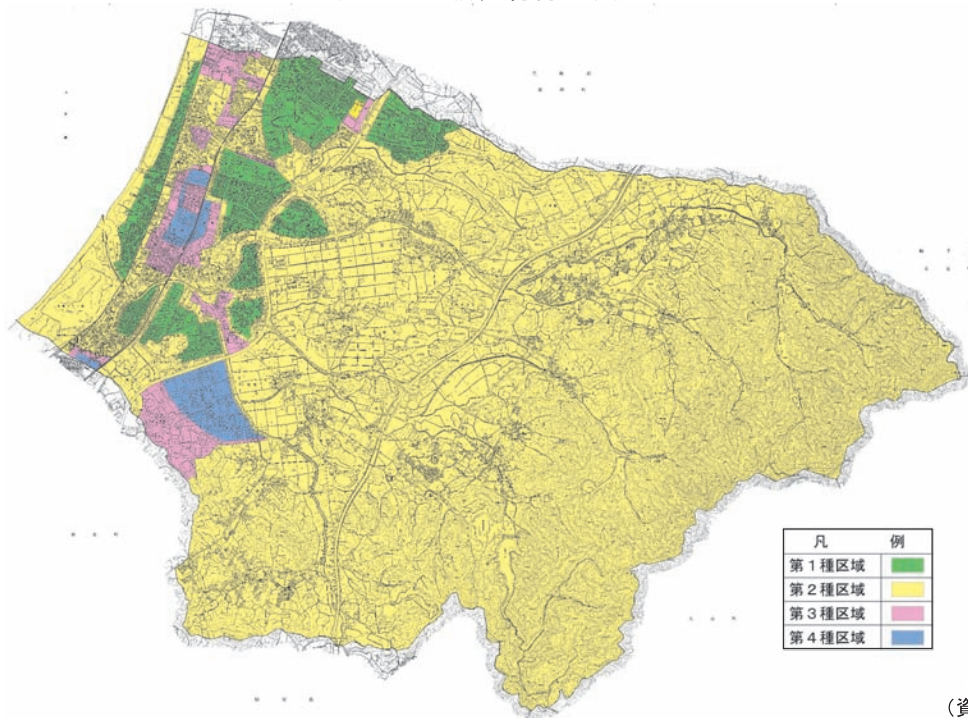
行政に望むこと

○大気汚染や水質汚濁などの公害対策の強化を望んでいる：511人/763人(67.0%)

(資料：H14年度市民アンケート調査)

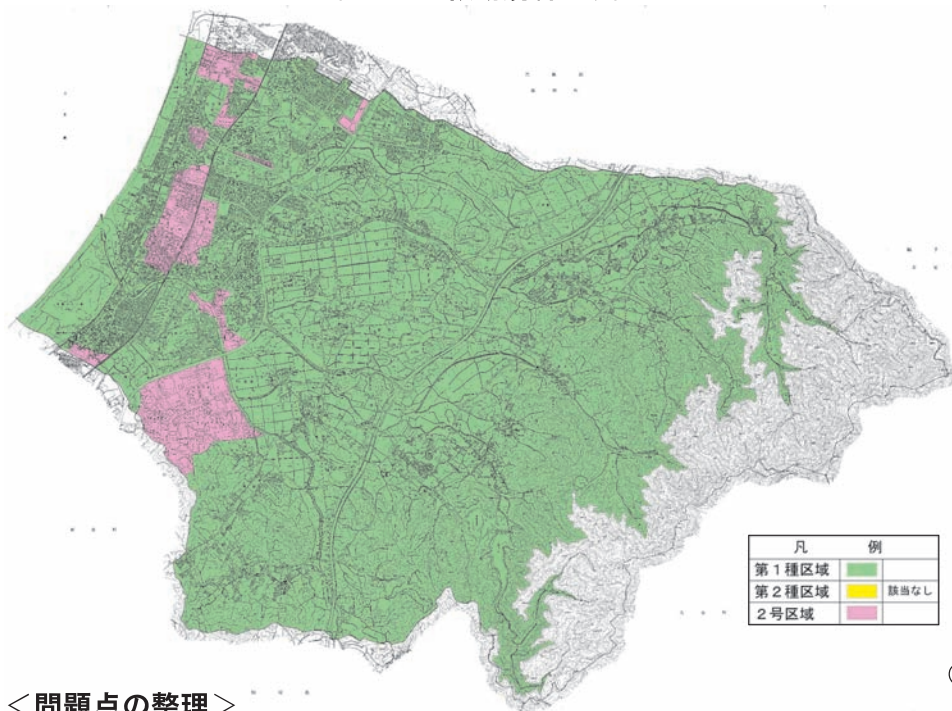


図2-10 騒音規制区域図



(資料：環境課)

図2-11 振動規制区域図



(資料：環境課)

<問題点の整理>

- 大気環境測定局はありませんが周辺の測定局のデータを見ると概ね良好な大気環境といえます。
- 市民の大気汚染に対する関心は高く、公害苦情の中では野外焼却に関するものが最も多く寄せられています。
- モータリゼーションの進行や古賀市及び近隣市町の人口増加等から、今後自動車騒音や近隣騒音問題が深刻化する可能性があります。



(2) 水質

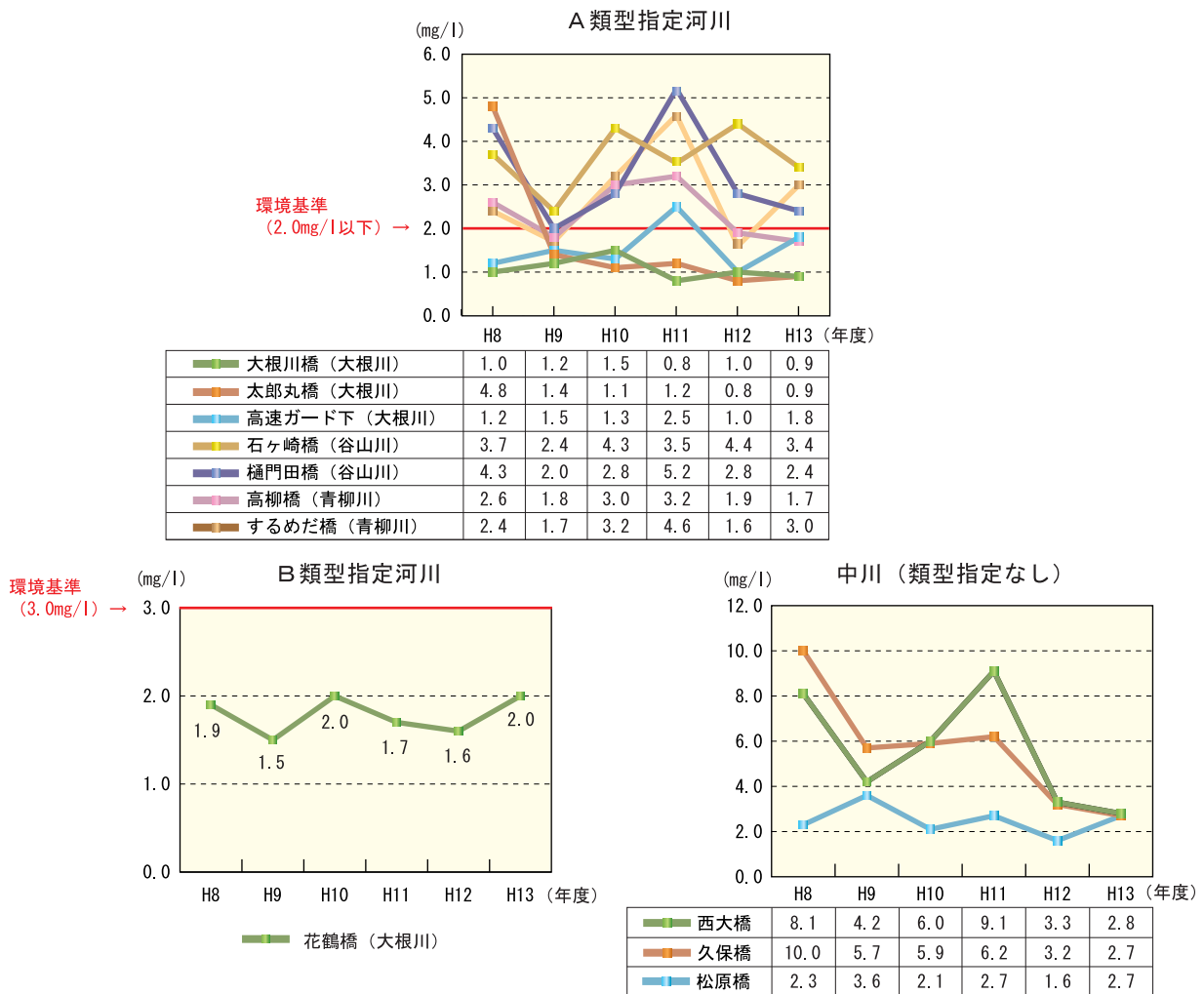
<現状>

① 河川

各河川の環境基準の類型は、中川では指定されておらず、大根川水系の花鶴橋でB類型、その他の調査地点でA類型に指定されています。

平成13年度の調査結果によると、大根川ではすべての調査地点でBOD*の環境基準を満足していますが、谷山川のすべての調査地点と青柳川の一部の調査地点では環境基準を満足していません。

図2-12 河川水質測定結果(BOD)の推移



(資料：公害関係測定結果 (福岡県))

② 地下水

平成13年度における地下水質の概況調査は、市内20か所の井戸で行われています。「公害関係測定結果 (福岡県)」によると、この調査で測定されたすべての項目について、環境基準を満足しています。

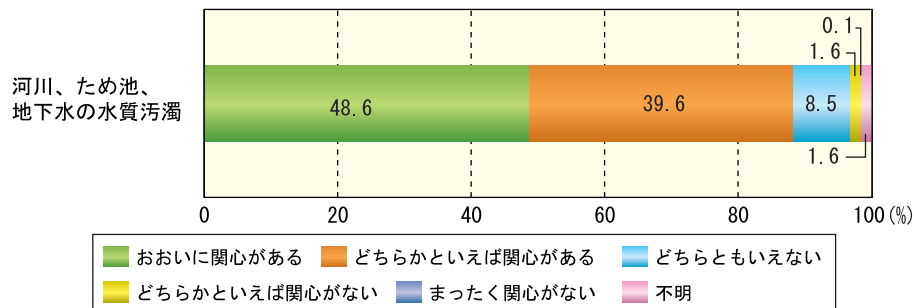
また、市独自の事業として、平成5年度から毎年、地点を変更して井戸水の検査 (12項目) を実施しています。



③ 水質汚濁についての関心

市民アンケート調査結果によると、市民の約9割が河川、ため池、地下水の水質汚濁について関心を持っています。また、約7割の市民が行政に望むこととして大気汚染や水質汚濁などの公害対策の強化を挙げています。

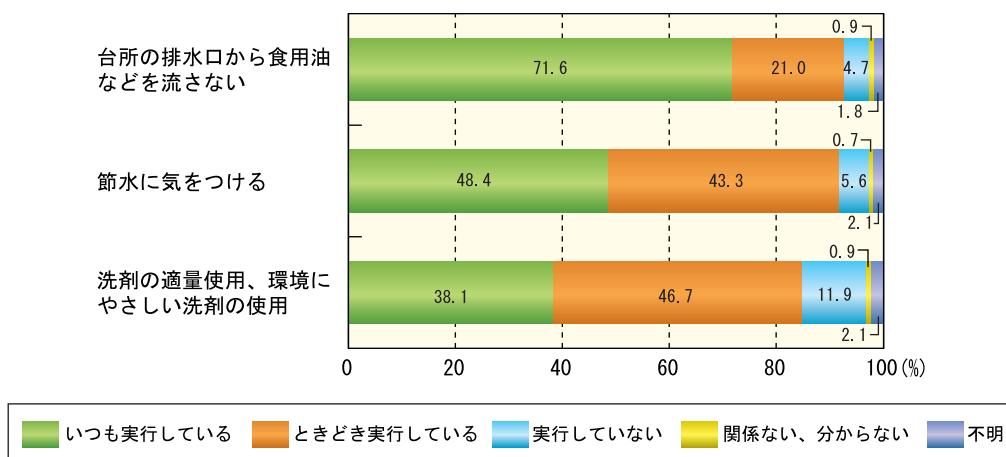
図2-13 水質汚濁に係る関心度



(資料：H14年度市民アンケート調査)

水を汚さないための取組としては、「台所での排水時の配慮」が最も実行されており、次いで「日常生活での節水」「洗剤の配慮」となっています。取組を実行していない理由としては、手間や知識不足が挙げられています。

図2-14 水を汚さないための取組



(資料：H14年度市民アンケート調査)

<問題点の整理>

- 谷山川、青柳川では環境基準を達成していないため、環境基準の早期達成が必要です。
- 市内河川の水質汚濁の主要な原因は、生活排水と思われるため、総合的な処理対策を推進するとともに各家庭における取組を促進する必要があります。



3) 土壤汚染、有害化学物質（ダイオキシン類）

<現状>

① 土壤汚染

古賀市においては、これまで土壤汚染、地盤沈下の発生は報告されていませんが、廃棄物問題と関連して土壤汚染を心配する市民の声もあがっています。

② 有害化学物質（ダイオキシン類）

環境ホルモン（外因性内分泌かく乱物質）*等の有害化学物質については、ダイオキシン類の測定のみ市内で行われています。調査は河川、地下水、土壤、大気について行われており、測定結果はいずれも環境基準を満たしています。多くの市民は環境ホルモン（外因性内分泌かく乱物質）について関心を持っていますが、実態把握は行われていないのが現状です。

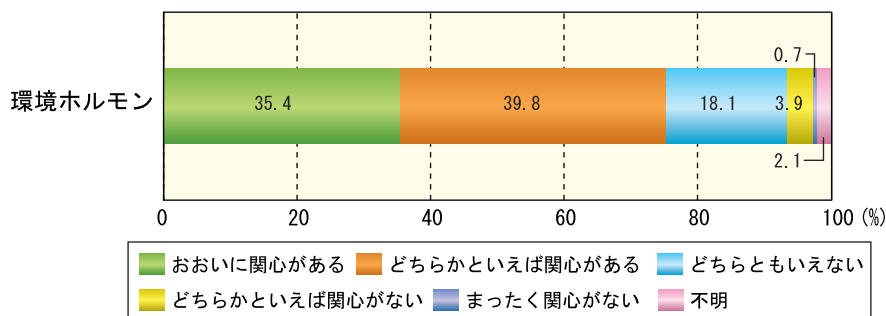
表2-2 ダイオキシン類測定結果

〈河川〉 (単位：pg-TEQ/l)			〈地下水〉 (単位：pg-TEQ/l)		
河川名	平成12年度測定結果	環境基準	地区名	測定結果	環境基準
大根川（花鶴橋）	0.32	1	筵内地区	平成12年度 0.043	1
			久保地区	平成13年度 0.071	1

〈土壤〉 (単位：pg-TEQ/l)				〈大気〉 (単位：pg-TEQ/l)			
調査名	地区名	平成12年度測定結果	環境基準	調査名	地区名	平成12年度測定結果	環境基準
一般環境調査	中央地区	0.0010	1.000	発生源周辺調査	青柳地区	0.066	0.6
発生源周辺調査	青柳地区	0.22					

(資料：公害関係測定結果（福岡県）)

図2-15 環境ホルモンに係る関心度



(資料：H14年度市民アンケート調査)

<問題点の整理>

- 現在、土壤汚染に関する指定地域はなく、土壤汚染や地盤沈下の発生は報告されていませんが、土壤汚染の発生を懸念する市民もいます。
- 多くの市民が環境ホルモン（外因性内分泌かく乱物質）に関心を持っていますが、実態把握は行われていません。



4) ごみ問題

<現状>

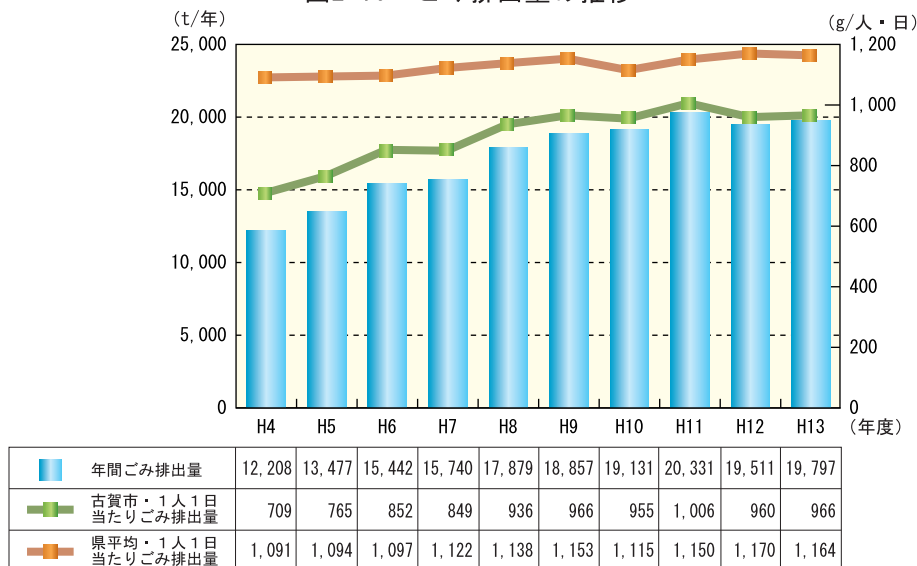
① 一般廃棄物

ごみの総排出量は、人口の増加や生活様式の変化とともに増加傾向にあり、平成11年度の総排出量は20,331 tで平成4年度に比べて約66.5%も増加しています。平成12年度は前年度と比べて約4%減少したものの、平成13年度は19,797 tで、再び増加しています。

また、市民1人1日当たりのごみの排出量も増加傾向にあり、平成4年度から平成11年度まで約41.8%増加しています。平成11年度から平成12年度にかけて1人当たり約50 g減少したものの、平成13年度には再び増加しています。県平均と比較すると、古賀市の方が少ない値で推移しています。

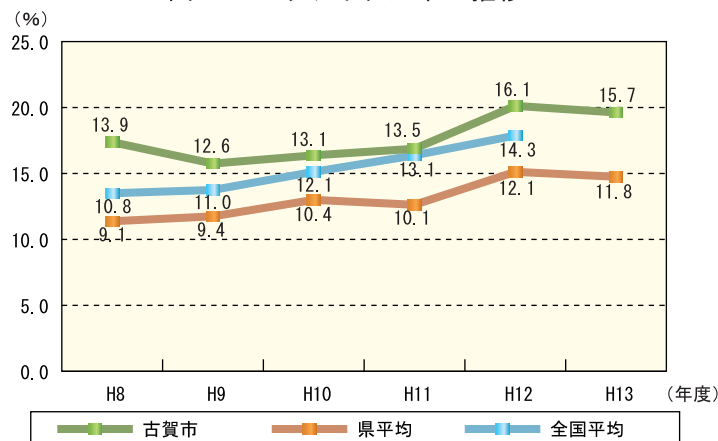
リサイクル率は年々高くなる傾向にありますが、平成13年度は前年より0.4%低くなりました。全国平均や県平均と比較すると高い値で推移しています。

図2-16 ごみ排出量の推移



(資料：福岡県における一般廃棄物処理の現況)

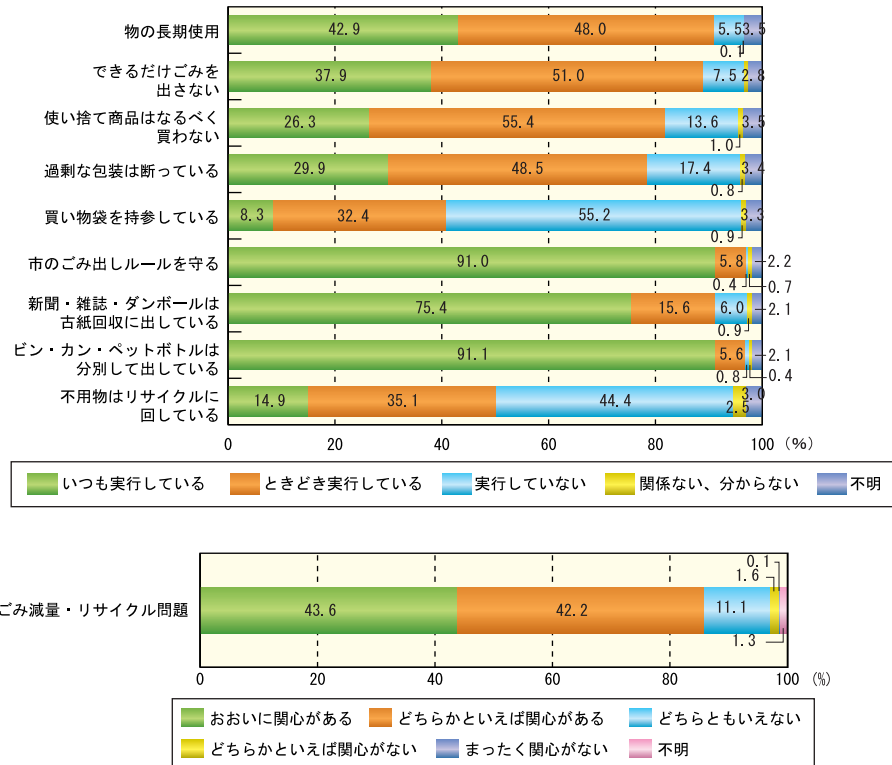
図2-17 リサイクル率の推移



(資料：福岡県における一般廃棄物処理の現況、全国値は環境省データ)

市民アンケート調査結果によると、市民の約9割が、ごみ減量・リサイクル問題に関心を持っています。ごみ減量化、リサイクルのための取組は、ごみの分別や古紙回収への協力の実行度が高くなっています。一方、「不用物のリサイクル会場への提供」や、「買い物袋の持参」の実行度は低く、その理由としては、「バザーやフリーマーケット*などの機会が少ないこと」、「手間がかかり、面倒であること」などが多くなっています。

図2-18 ごみ減量、リサイクルのための取組状況及びごみ減量・リサイクルへの関心



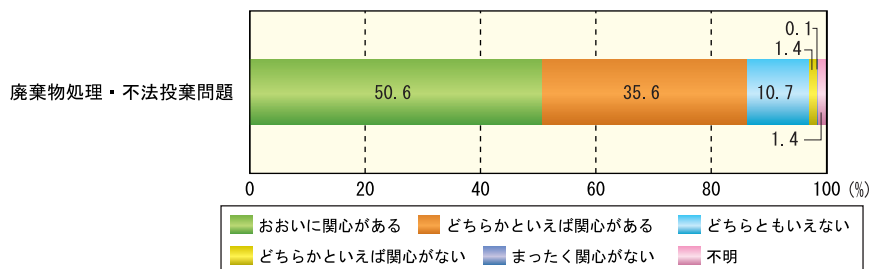
(資料：H14年度市民アンケート調査)

② 産業廃棄物・不法投棄

古賀市の産業廃棄物については、県が進めている産業廃棄物の広域処理体制の中で取り組んでいます。

市民アンケート調査結果によると、市民の約9割が、廃棄物処理・不法投棄問題に関心を持っています。また、山間部や海岸部への不法投棄に対する苦情も毎年数件寄せられています。

図2-19 廃棄物処理・不法投棄問題に係る関心度



(資料：H14年度市民アンケート調査)



<問題点の整理>

- 多くの市民はごみ減量・リサイクルに対して関心を持っているものの、人口の増加と生活様式の変化に伴いごみ収集量は増加傾向にあり、ごみの排出量を抑える対策が必要です。
- 産業廃棄物処理に対する市民の関心は高いものの、市内における処理の実態は把握されていません。
- 不法投棄に関する市民の関心は高く、山間部や海岸などにおける不法投棄が問題となっています。

(3) 都市環境

1) 身近な緑（公園、緑地等）

<現状>

犬鳴山地の山林は、古賀市の飲料水や灌漑用水の水源として重要な役割を果たしており、国有林、民有林合わせて324haが水源かん養*林に指定されています。

また、大規模な公園が18か所29ha設置され、市民1人当たりの面積は5.36㎡となっています。大規模な公園以外にも、小規模な公園が設置されています。

現在、緑化推進のマスタープランである緑の基本計画は策定されておらず、今後の計画的な緑化推進が課題であるといえます。

表2-3 大規模な公園整備状況

分類	種類	数(か所)	面積(ha)	
基幹公園	街区公園	14	3.80	
	住宅基幹公園	近隣公園	2	5.50
		地区公園	1	8.20
		総合公園	1	11.50
	都市基幹公園	運動公園	—	—
		合計	18	29.00

(資料：都市計画課)

市民アンケート調査結果によると、図2-4に示すように、多くの市民が身近な自然の減少に関心を持つ一方で、身近な緑とのふれあいを将来も守っていききたいものと感じています。

<問題点の整理>

- 市内の計画的な緑化を進めるための基本方針である緑のマスタープランはありません。
- 市民は身近な自然の減少に関心があり、身近な緑とのふれあいを求めています。

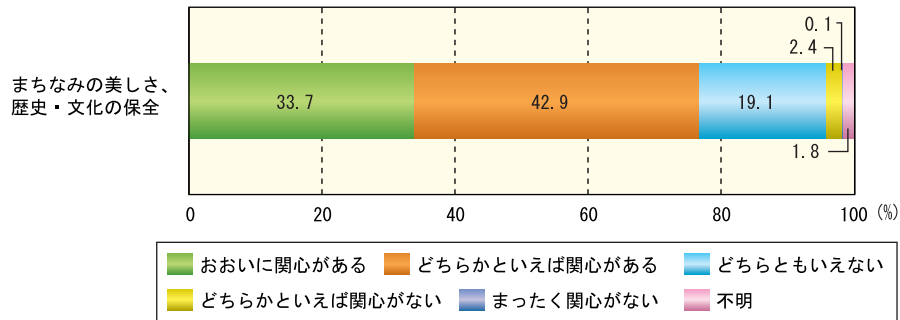


2) まちなみ景観、歴史・文化

<現状>

市民アンケート調査結果によると、市民の約8割が、「まちなみの美しさ、歴史・文化の保全」に関心を持っています。また、たばこやごみのポイ捨て、犬猫の糞などの問題を指摘する意見が多くなっています。

図2-20 まちなみ景観についての関心



(資料：H14年度市民アンケート調査)

特に残して欲しい景観等には、五所八幡宮、青柳宿(長崎街道)、薬王寺、熊野神社等が挙げられています。

選んだ主な理由としては、五所八幡宮は「古いから、社寺林があるから」等です。青柳宿は「歴史を感じる街並みであるから」等です。薬王寺は、「観光地であるから、風情があるから」等です。

なお、歴史・文化について見ると、古賀市には小山田斎宮の社叢や永浦古墳群など多くの文化財や遺跡が分布していますが、文化財の保存整備状況に関する市民の関心は高くありません。

<問題点の整理>

- 多くの市民がまちなみの美しさに関心を持っており、残して欲しい景観としては自然性や歴史性を重視しています。
- たばこやごみのポイ捨て防止に関する措置やペットの飼い方の指導を強化することが求められています。
- 市内には文化財や遺跡が多く分布していますが、その保存整備状況への市民の関心は高くありません。



(4) 地球環境

<現状>

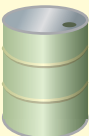
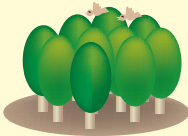
① 最終エネルギー消費量と二酸化炭素排出量

古賀市内の年間電力使用量や都市ガスの年間販売量は年々増加しています。平成12年度における古賀市の最終エネルギー消費量の原油換算値は、98,751klで、200ℓドラム缶493,754.71本もの量になります。

また、二酸化炭素排出量は、二酸化炭素換算値で275,712t-CO₂となっており、この二酸化炭素排出量を森林で吸収させる場合、必要な森林面積は18,212.47haとなり、古賀市全体の森林面積1,373haの約13.3倍となります。

表2-4 最終エネルギー消費量（原油換算値）と二酸化炭素排出量

部 門		原油換算値 (kl)	割 合	二酸化炭素 排出量 (t-CO ₂)	割 合
民生部門	家庭	17,505	17.7%	50,431	18.3%
	業務	14,955	15.1%	36,748	13.3%
	小 計	32,460	32.9%	87,180	31.6%
産業部門	製造業	35,740	36.2%	105,344	38.2%
	鉱業	0	0.0%	0	0.0%
	農業	1,349	1.4%	3,685	1.3%
	建設業	2,814	2.8%	7,539	2.8%
小 計		39,903	40.4%	116,621	42.3%
運輸・交通部門		26,388	26.7%	71,911	26.1%
合 計		98,751	100.0%	275,712	100.0%

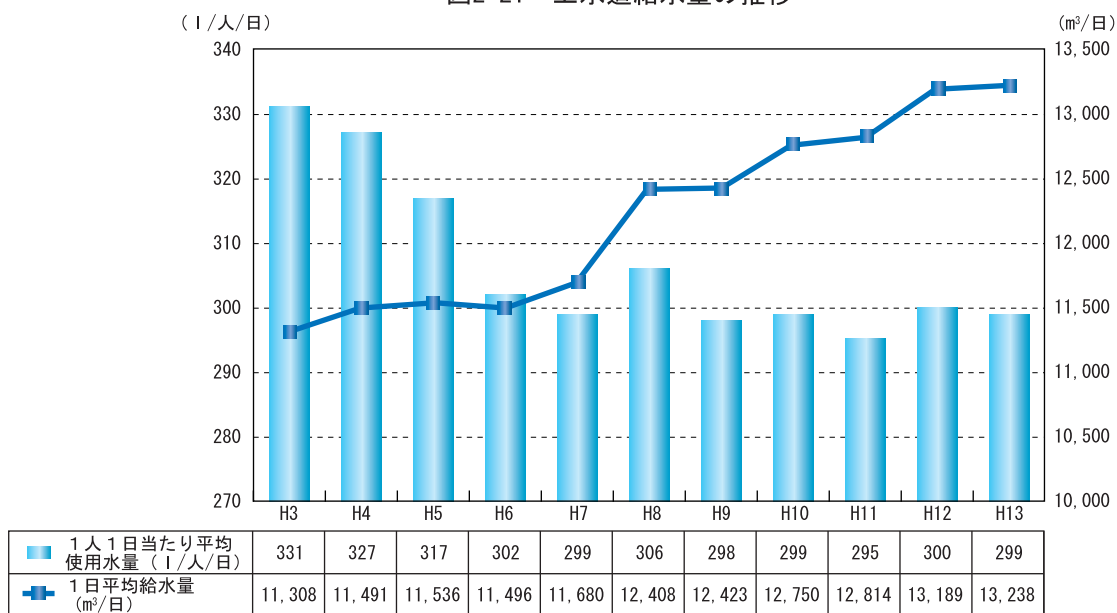
200ℓドラム缶換算値	森林面積換算値
	
493,754.71本	18,212.47ha
参考：民生家庭部門における換算値	
1世帯当たり 4.72本	1世帯当たり 1,800㎡

(資料：環境課)

② 水資源

上水道の1人1日当たり平均使用水量は減少傾向を示していますが、1日平均給水量は年々増加しています。古賀市の水源は、地下水、大根川からの取水、古賀ダムの貯水、および福岡地区水道企業団からの受水です。水の有効利用を図るための方策として、利用者への節水意識の啓発や漏水防止の取組を進めていますが、水資源の確保のためには、水源かん養量を高めることも必要です。なお、古賀市内における雨水利用はあまり進んでいないのが実情です。

図2-21 上水道給水量の推移



(資料：水道課)

表2-5 古賀市の水源(平成13年度)

取水箇所	取水量 (千m³)	取水比率 (%)
ダム	444	9
河川	876	18
地下水	2,531	52
福岡地区水道企業団	1,031	21
合計	4,882	100

(資料：水道課)



③ 省エネルギーに関する市民等の意識

市民アンケート調査結果によると、市民の省エネルギーへの取組については、日常身近にできる「節電」や購入の際に経費負担の少ない「省エネルギー型の家電製品の購入」に関する実行度は比較的高いものの、経費負担の大きい「太陽熱温水器、太陽光発電などの利用」に関しては実行度が極めて低く、この理由として「コストがかかる」との意見が多くなっています。

また、多くの市民が現在のエネルギー使用量があまり多くないと感じていますが、エネルギー使用量に関わらず、削減できると回答した人は、全体の48.1%を占めています。また、現在のエネルギー使用量を節約できると回答した人の削減目標値としては、「10～19%」と回答した人が約半数を占め最も多くなっています。

図2-22 省エネルギーへの取組

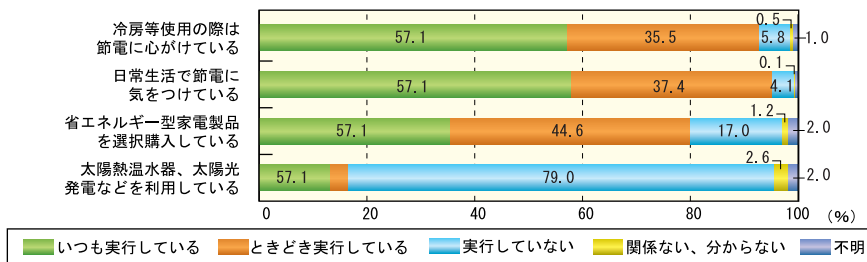
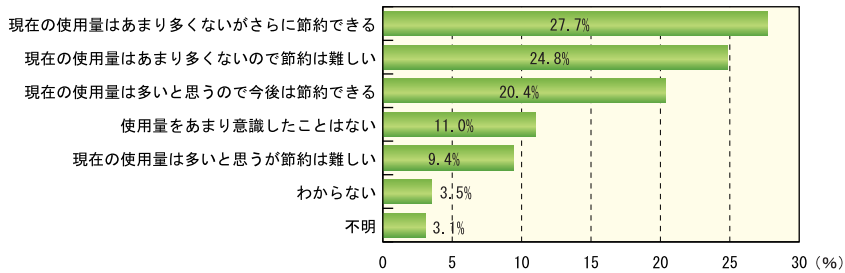


図2-23 エネルギーの使用状況と節約意向



(資料：H14年度市民アンケート調査)

事業者アンケート調査結果によると、新エネルギー※・省エネルギーに関する補助制度については、利用していない事業者がほとんどで、利用しない理由としては情報が少なく、どのような補助制度があるか分からないためと回答する事業者が多くなっています。

<問題点の整理>

- 電気・ガスの年間消費量は増加傾向にありますが、もっと節約できると考えている市民が多くなっています。
- 省エネルギーや新エネルギーに関する取組のより一層の推進が求められています。
- 上水道給水量の全てが市内の水源でまかなわれているわけではありませんが、給水量は年々増加しているため、節水とともに水源かん養量を高めることが必要です。
- 新エネルギーや省エネルギーに関する補助制度の存在を知らない事業者が多く、これらの情報提供が必要です。
- 雨水利用はあまり進んでいないのが実情です。



(5) 環境意識と行動（ライフスタイル）

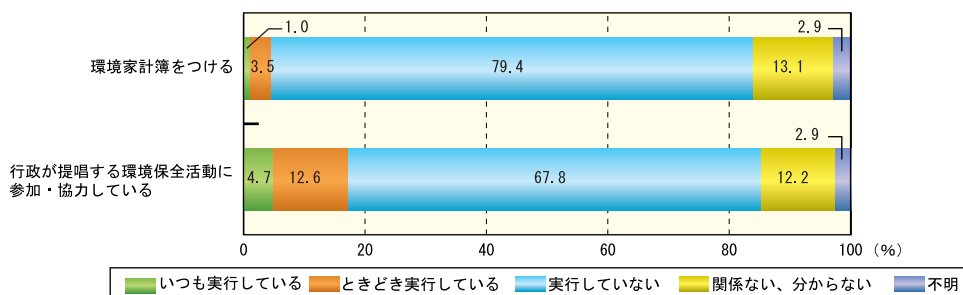
1) ライフスタイル・ビジネススタイル

<現状>

① ライフスタイル

環境家計簿*や環境保全活動への参加・協力については、市民のライフスタイルに定着しておらず、実施度は極めて低くなっています。その理由として「活動の存在を知らない」「どのように取り組んでよいか分からない」という意見が多くなっています。

図2-24 その他の環境保全に関する取組

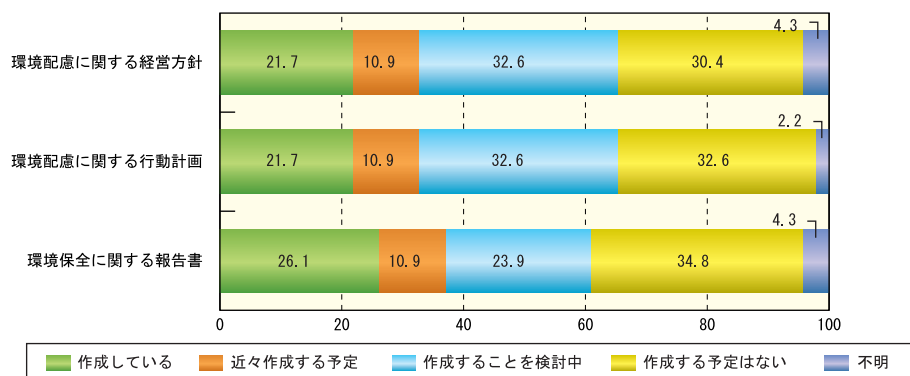


(資料：H14年度市民アンケート調査)

② ビジネススタイル

事業者アンケート調査結果によると、環境に関する経営方針、具体的目標や行動計画などの作成について、全体的に作成している事業者の割合は少なく、一方では、今後も作成する予定はないと回答している事業者も多くなっています。また、作成しない理由については、必要性がないと答える傾向が強く、作成の仕方がよく分からないという意見も挙げられています。

図2-25 環境に関する経営方針、目標、行動計画について

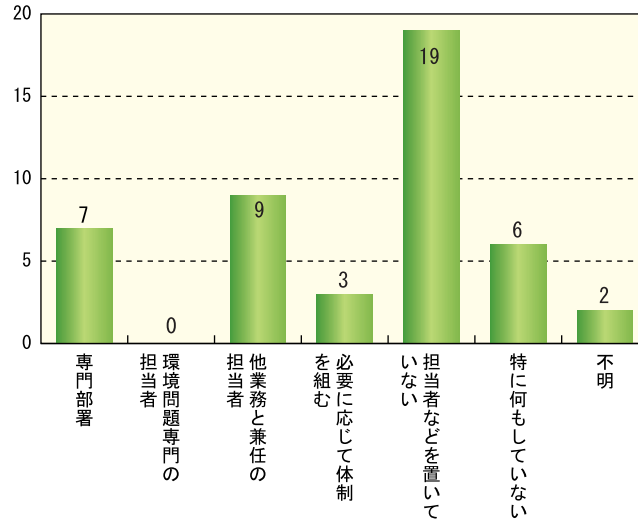


(資料：H14年度事業者アンケート調査)

さらに、環境に配慮してはいるものの、環境保全に取り組む体制は整えていない事業者が多くなっています。また、専任の部署を設置していない理由としては、各部署で対応しているためとの回答が最も多く、設置の仕方が分からないと回答する事業者も見られます。



図2-26 事業者の環境問題への取組体制



(資料：H14年度事業者アンケート調査)

環境マネジメントシステム*については、ISO14001*、環境活動評価プログラム*とも、取り組んでいる事業者は少なく、よく知らないという事業者が多くなっています。また、実施の予定はないが興味があると回答する事業者も比較的多くなっています。事業者が環境マネジメントに取り組む際、行政からの支援として期待しているものは、必要経費の補助制度が最も多く、これに次いで手引書の作成、情報提供となっており、情報発信や情報提供を必要としていることがうかがえます。また、支援があれば、興味があるため検討したいと回答した事業者が多くなっています。

図2-27 環境マネジメントシステムの取組状況

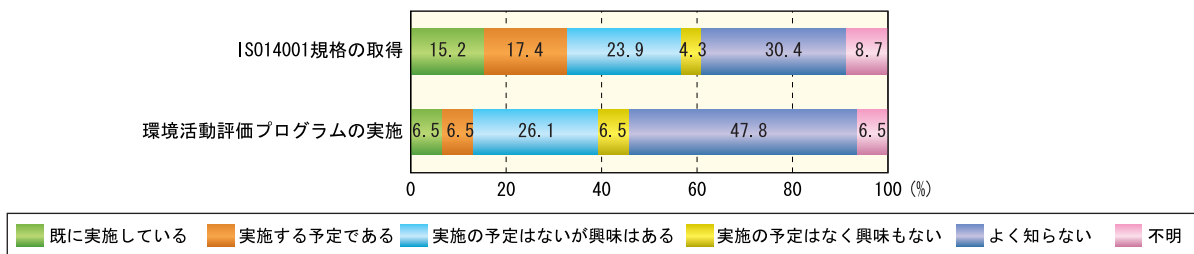
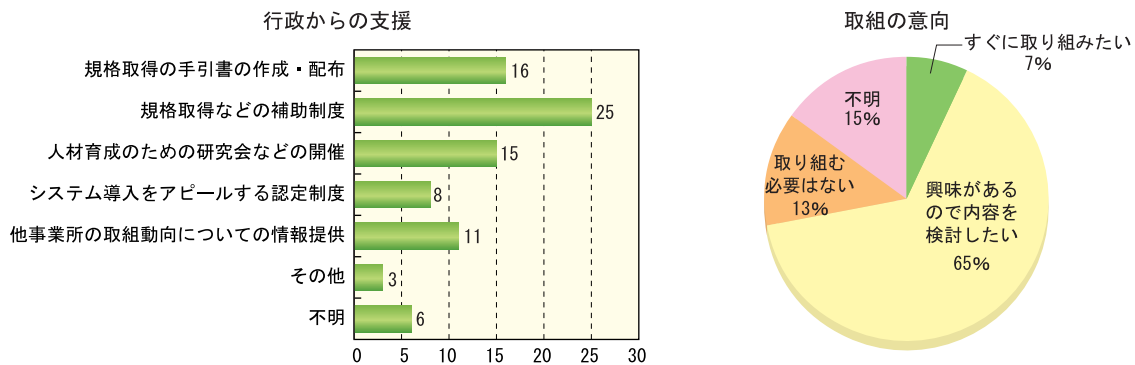


図2-28 環境マネジメントシステムに関する行政の支援策及び事業者の今後の取組意向



(資料：H14年度事業者アンケート調査)

<問題点の整理>

- 知識がないことが行動に結びつかない市民や事業者が多いと考えられるため、大人・子ども・事業者のそれぞれに対し、意識改革につながるような環境教育・学習が求められています。
- 環境マネジメントシステムを導入している事業者は少ないものの、行政が支援することで導入が進む素地はあります。

2) 環境保全活動

<現状>

古賀市では環境美化行動の日に市民参加による清掃が行われています。

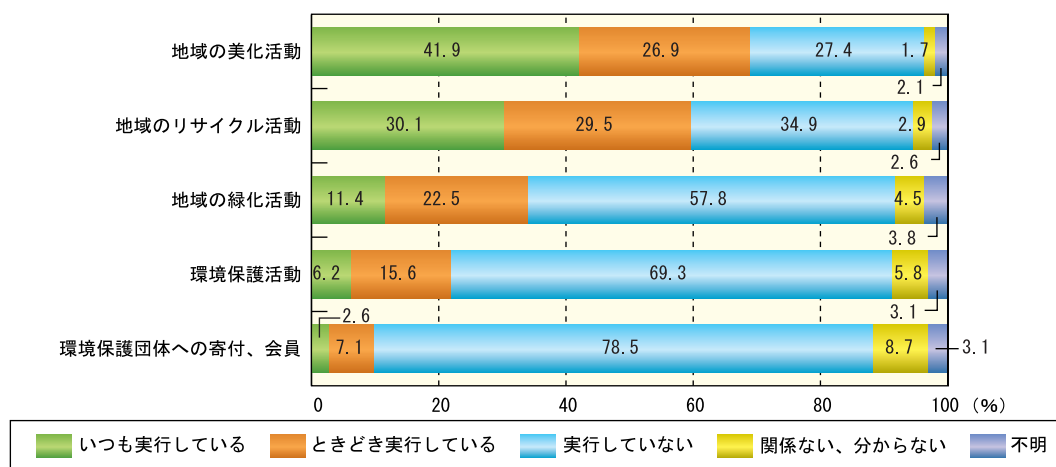
ごみ減量・リサイクルに関する活動について見ると、平成10年度から、花見小学校区、小野小学校区をモデル地区として分別収集を開始し、平成12年度からは市内全域で分別収集を行っています。

また、古紙や古布を対象に平成7年から集団回収に対する助成を行っており、登録団体や回収量が徐々に増えています。

緑化に関する活動について見ると、平成14年から、「古賀市10万本ふるさとの森づくり」として、古賀グリーンパークへの植樹が行われています。

市民アンケート調査結果によると、「地域の美化活動」「地域のリサイクル活動」への参加傾向は高いものの、個人的な活動となる「団体への寄付や入会」の傾向はかなり低くなっています。環境保全活動等への参加を「実施していない」「関係ない、分からない」と回答した人の理由としては、「どのような活動が行われているのかよく知らない」、「参加する時間がない」という意見が多くなっています。

図2-29 環境保全活動への参加



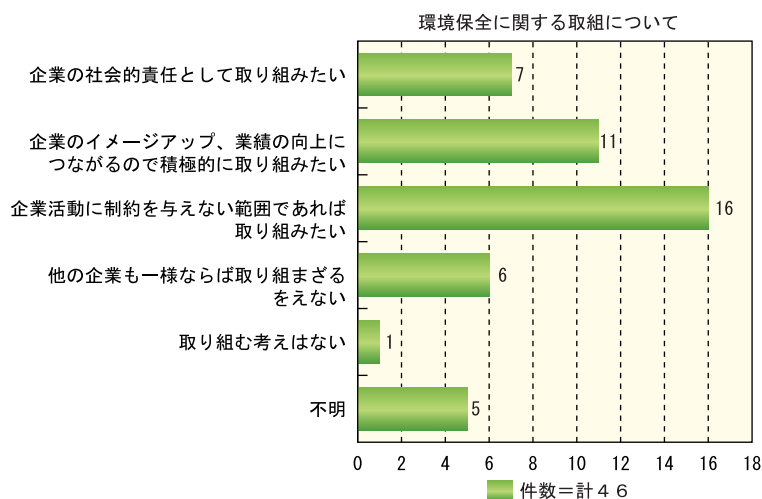
(資料：H14年度市民アンケート調査)



古賀市では、家庭系の生ごみの減量について、平成12年度から生ごみ堆肥化容器の半額助成を行っています。さらに、下水道整備の一環として、一定条件を満たして合併処理浄化槽*を設置する市民に対し、設置費用の補助を行っています。

事業者アンケート調査結果をみると、事業者の環境保全活動への取組については、今後取り組みたいと考えている事業者が多く、その中では企業活動に制約を与えない範囲であれば取り組みたいという意見が多くなっています。また収益に関わらず企業の社会的責任として取り組みたいと答える事業者もみられます。

図2-30 事業者の環境保全に関する取組について



(資料：H14年度事業者アンケート調査)

現在実施している取組については、節電、分別・リサイクル、廃棄物の減量化、紙の使用量の削減など、身近で気軽に取り組めるものの実施が多くなっています。一方、団体活動への参加やコストがかかるもの、手間がかかるものの取組は実施されている割合が少なくなっています。

上記以外の取組としては、建設業者における低排気ガスの建設機械等の使用やサービス業者における使用済み油の業者へのリサイクル、卸売・小売業者での取り扱う環境配慮商品の拡大等も具体的に取り組まれています。

<問題点の整理>

- 「環境美化行動の日」や「植樹行動の日」に参加する市民は多く、こうした参加意識の高さを活かして環境保全活動の輪を広げていく必要があります。
- 様々な団体が環境保全活動に取り組んでおり、地域の美化活動への市民の参加率も高い一方で、どのような活動が行われているか分からないため、活動に参加しない市民も多くみられます。



3) 環境教育・学習

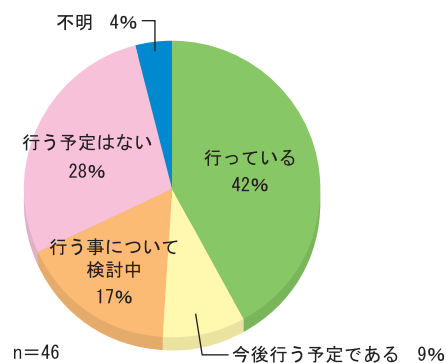
<現状>

古賀市では、市民を対象とするまちづくり講座（出前講座）を実施しており、環境に関するテーマは「千鳥ヶ池の自然」、「ごみの分別収集・ごみ減量」、「下水道のしくみ」、「水道のしくみ」、「歴史講座」が取り上げられています。学校においては、総合学習などの時間を活用して、ホテルの飼育や省エネルギー教育推進モデル校、学校ビオトープ*などの取組が行われています。また、環境保全活動団体による環境教育も行われています。

市民アンケート調査結果によると、市民や事業者の環境モラル向上を指摘する意見やこどもから大人まで環境教育を進めるべきとする意見が多く見られました。

事業者アンケート調査結果によると、従業員の環境教育・訓練・啓発の実施状況については、行っていると回答した事業者が最も多くなっています。しかしながら、行う予定はないと回答した事業者も比較的多くみられます。

図2-31 従業員に関する教育・訓練・啓発活動の実施状況

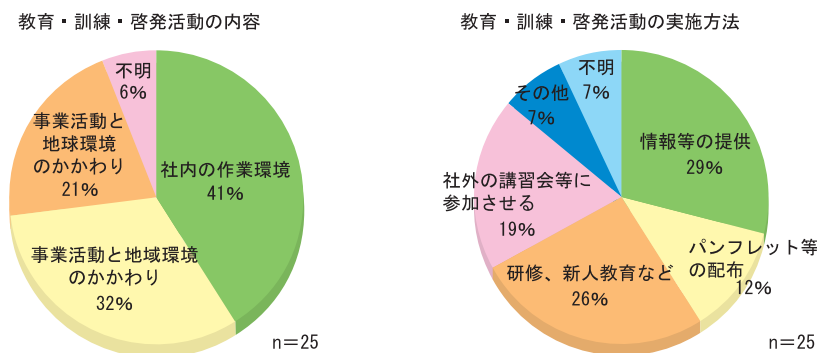


(資料：H14年度市民アンケート調査)

また、従業員の環境教育活動の実施内容としては、社内の作業環境についての教育が最も多く、事業活動と地域環境の関わりについて、事業活動と地球環境の関わりについてとなっています。

最も身近な社内から地域、地球へと広範囲になるにつれ、環境教育の対象範囲としての意識が薄れているといえます。

図2-32 従業員の環境教育活動の実施内容・方法



(資料：H14年度市民アンケート調査)



さらに、従業員の環境教育活動を実施していない理由としては、どのように取り組めばよいのか分からないとの回答が最も多いことから、環境教育に関する知識のことがうかがえますが、必要性がないと回答した事業者も比較的多くなっています。

<問題点の整理>

- 市民や事業者の環境に関するモラルを改善すべきとの意見が多く、環境教育を一層進めていく必要があります。
- 大人と子どもそれぞれに対する環境教育・学習が求められています。
- 知識がないことが行動につながらない市民や事業者が多いと考えられるため、より一層環境情報を提供していくことが求められています。

4 環境上の課題と取組の方向性

環境の項目別にみた課題と取組の方向性をまとめると、次のとおりです。

(1) 自然環境に関する課題と取組の方向性

項目	課題	取組の方向性
自然環境	<p>○市内には犬鳴山系に連なる山々や河川、玄海国定公園に指定されている海岸線と松林など多様な自然が残され、希少な動植物等も生息・生育しています。</p> <p>○市民の多くが貴重な自然の減少に関心を持っており、保全すべき自然環境を明らかにして、必要な措置を検討していく必要があります。</p> <p>○担い手の育成を含めた森林や農地の保全対策が求められています。</p> <p>○自然とのふれあいの機会や場の確保が求められています。</p> <p>○多くの市民は水辺に関心を持っており、水辺により親しみを感じたいという意見がうかがえます。</p> <p>○親しみのある水辺づくりのための市民参加による河川清掃の必要性が指摘されています。</p>	<p>★継続的な自然環境調査の実施</p> <p>★自然環境の実態調査結果に基づく、保全すべき自然環境の明確化と対応方針の検討</p> <p>★開発事業における環境配慮指針の作成と運用</p> <p>★森林ボランティアの育成、地産地消の促進</p> <p>★自然観察会等自然とふれあう機会の提供</p>

(2) 生活環境に関する課題と取組の方向性

項目	課題	取組の方向性
大気環境、騒音・振動	<p>○大気環境測定局はありませんが、周辺の測定局のデータを見ると概ね良好な大気環境といえます。</p> <p>○市民の大気汚染に対する関心は高く、公害苦情の中では野外焼却に関するものが最も多く寄せられています。</p> <p>○モータリゼーションの進行や古賀市及び近隣市町の人口増加等から、今後自動車騒音や近隣騒音問題が深刻化する可能性があります。</p>	<p>★良好な大気環境の維持</p> <p>★沿道緑化による排ガス・騒音対策</p> <p>★野外焼却に関する指導の徹底</p> <p>★周辺市町と連携した自動車利用削減対策の検討</p> <p>★近隣騒音対策の促進（市民・事業者のモラル向上）</p>
水質	<p>○谷山川、青柳川では環境基準を達成していないため、環境基準の早期達成が必要です。</p> <p>○市内河川の水質汚濁の主要な原因は、生活排水と考えられ、総合的な処理対策を推進するとともに各家庭における取組を促進する必要があります。</p>	<p>★生活排水対策の推進（公共下水道整備の推進、公共下水道整備区域外における家庭用小型合併処理浄化槽の設置や農業集落排水※事業の整備促進）</p> <p>★水質保全にかかる活動の普及・啓発及び促進</p>
土壌汚染、有害化学物質（ダイオキシン類）	<p>○現在、土壌汚染に関する指定地域はなく、土壌汚染や地盤沈下の発生は報告されていませんが、土壌汚染の発生を懸念している市民もいます。</p> <p>○多くの市民が環境ホルモン（外因性内分泌かく乱物質）に関心を持っていますが、実態把握は行われていません。</p>	<p>★土壌汚染に関する実態の把握と情報提供</p> <p>★有害化学物質に関する実態の把握と正しい情報の共有</p>
ごみ問題	<p>○多くの市民はごみ減量・リサイクルに対して関心を持っているものの、人口の増加と生活様式の変化に伴いごみ収集量は増加傾向にあり、ごみ排出量を抑える対策が必要です。</p> <p>○産業廃棄物処理に対する市民の関心は高いものの、市内における処理の実態は把握されていません。</p> <p>○不法投棄に関する市民の関心は高く、山間部や海岸などにおける不法投棄が問題となっています。</p>	<p>★ごみ減量・リサイクル対策の推進</p> <p>★ごみ分別の徹底など、家庭や事業所でのごみ減量にかかる意識の向上と行動の促進</p> <p>★産業廃棄物処理の実態の把握と情報提供</p> <p>★不法投棄監視・指導体制の強化</p>



(3) 都市環境に関する課題と取組の方向性

項目	課題	取組の方向性
身近な緑 (公園、 緑地等)	<ul style="list-style-type: none"> ○市内の計画的な緑化を進めるための基本方針がありません。 ○市民は身近な自然の減少に関心があり、身近な緑とのふれあいを求めています。 	<ul style="list-style-type: none"> ★緑の基本計画の策定と計画に基づく緑化の推進 ★身近な公園や緑地の整備
まちなみ 景観	<ul style="list-style-type: none"> ○多くの市民がまちなみの美しさに関心を持っており、残して欲しい景観としては自然性や歴史性を重視しています。 ○たばこやごみのポイ捨て防止に関する措置やペットの飼い方の指導を強化することが求められています。 ○市内には文化財や遺跡が多く分布していますが、その保存整備状況への市民の関心は高くありません。 	<ul style="list-style-type: none"> ★優れた自然景観や良好なまちなみ景観の保全 ★景観を阻害するポイ捨ての防止策やペットの飼い方の指導強化

(4) 地球環境に関する課題と取組の方向性

項目	課題	取組の方向性
資源・ エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ○電気・ガスの年間消費量は増加傾向にありますが、もっと節約できると考えている市民が多くなっています。 ○省エネルギーや新エネルギーに関する取組のより一層の推進が求められています。 ○平成12年度における二酸化炭素排出量は換算値で275,712t-CO₂でその削減に向けた取組が求められています。 ○省エネルギーや新エネルギーに関する補助制度の存在を知らない事業者が多く、これらの情報提供が必要です。 ○上水道給水量の全てが市内の水源で確保されているわけではありませんが、給水量は年々増加しているため、節水とともに水源かん養量を高めることが必要です。 ○雨水利用はあまり進んでいません。 	<ul style="list-style-type: none"> ★市全体での省エネルギー・省資源に向けた取組の推進 ★新エネルギーや省エネルギーに関する補助制度などの情報提供 ★二酸化炭素吸収源としての緑化の推進 ★水源かん養林の保全と育成 ★水資源の有効活用 ★雨水利用や中水道整備の検討

(5) 環境意識と行動に関する課題と取組の方向性

項目	課題	取組の方向性
ライフ スタイル・ ビジネス スタイル	<ul style="list-style-type: none"> ○知識がないことが行動に結びつかない市民や事業者が多いと考えられるため、大人・子ども・事業者のそれぞれに対し、意識改革につながるような環境教育・学習が求められています。 ○環境マネジメントシステムを導入している事業者は少ないものの、行政が支援することで導入が進む素地はあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ★環境に配慮した行動や企業活動に関する指針の作成と普及・啓発 ★事業者の環境マネジメントシステム導入に関する支援の検討
環境保全 活動	<ul style="list-style-type: none"> ○「環境美化行動の日」や「植樹行動の日」に参加する市民は多く、こうした参加意識の高さを活かして環境保全活動の輪を広げていく必要があります。 ○様々な団体が環境保全活動に取り組んでおり、地域の美化活動への市民の参加率も高い一方で、どのような活動が行われているか分からないため、活動に参加しない市民も多くみられます。 	<ul style="list-style-type: none"> ★環境保全活動に関する情報の提供 ★環境保全活動団体の相互の連携強化
環境教育・ 学習	<ul style="list-style-type: none"> ○市民や事業者の環境に関するモラルを改善すべきとの意見が多く、環境教育を一層進めていく必要があります。 ○大人と子どもそれぞれに対する環境教育・学習が求められています。 ○知識がないことが行動につながらない市民や事業者が多いと考えられるため、より一層環境情報を提供していくことが求められています。 	<ul style="list-style-type: none"> ★市民や事業者の環境に関するモラルの向上 ★年齢層に応じた環境教育・学習の充実 ★積極的な環境情報の提供



